

2人でずっと豊根に



村勤務の石井さんが結婚式

写真は恋人の聖地「砂の泉」で願いを込めて石を投げる石井峻人さんと裕理さん＝豊根村の茶臼山高原

があり、裕理さんとは大学時代にアルバイト先で知り合い、交際を続けてきた。

2人は、4月2日に婚姻届を提出し、過疎が進む同村三沢地区に借家を借りて暮らし始めた。地元にこだわり、民俗芸能に興味がある峻人さんは、今月11日に氏神様で神前式を挙げ、住民らが、07年を最後に休止されている伝統芸能の「花祭り」を1日だけ復活させて2人の門出を祝った。

観光スポットとなっている「恋人の聖地」での結婚式は、「お世話になっている村の観光PRに役立てば」と計画された。

2人は、村に古くから伝わる結婚式の風習「トオセンボ」を体験。お嫁さんを集落から出さないようにするもので、約20人の子どもたちが裕理さんの前で「トオセンボ」をした。恋人の

豊根村の茶臼山高原にある「恋人の聖地」で12日、「地域おこし協力隊」として同村で活動する石井峻人さん(28)＝千葉県鎌ヶ谷市出身＝と裕理さん(28)＝静岡県富士市出身＝が人前結婚式を挙げた。多くの村民や観光客が見守る中、キューピッドの矢をイメージした「砂の泉」の前で愛を誓った。

峻人さんは、都市部の住民を受け入れる総務省の地域おこし協力隊「事業で働く」で働いている。東京のホテルで働いていたこと

聖地では、願いがかなうとされる「砂の泉」に天然石を投げ入れた。初めて田舎暮らしをする裕理さんは「村の人たちは温かい人ばかり。たくさん

の人に祝ってもらえて本当にうれしい」。来年3月末で協力隊の任務が終了する峻人さんは「できればずっと豊根村で暮らしたい」と笑顔をみせた。(松永佳伸)